

2012年13月9日

さいたまけんりつ

H 11.3.31

No. 75

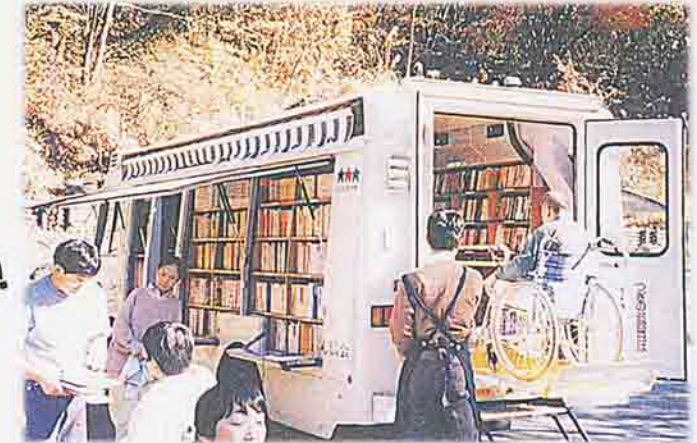
図書館だより

広域サービス ～拡がる図書館サービス～



▲相互貸借資料搬送中の連絡車・協力車

さらに便利に、
もっと身近な
図書館を目指して！



▲巡回中の新しい移動図書館「さきたま号」(p.4)

平成11年4月から祝日が開館日となります。

開館時間 午前9時から午後5時まで
祝日の翌日(土・日曜日・祝日の場合は開館)は休館となります。

拡がる図書館サービス

相互貸借・移動図書館...

お近くのA市図書館で借りた本に、遠方のB町図書館の蔵書印が付いていたことはありませんか。

このちょっと不思議な本は皆さまのリクエストにお応えするため、A市図書館がB町の図書館から借りてきた本なのです。

生涯学習時代にあって人々の資料や情報に寄せる関心が高まり、図書館への資料

要求が多岐にわたっています。こうしたなかで、どの図書館も自館の資料だけでは、充実した図書館サービスを利用者の皆さまに提供することは難しく、互いに資料の貸し借りなどを行い、多様化・高度化する資料要求に応えていこうと努めています。

今回は、県立図書館が県内の市町村立図書館と連携協力しながら、県内全域にわたる図書館サービスの一層の充実に向け、頑張るようすを紹介します。

◆ 相互貸借

日頃利用している図書館に、求める本がない場合があります。そうした場合、その図書館ではリクエストされた本を他の図書館から借りるなどして皆さまの要求にお応えしています。このときに県立、市町村立の各図書館はお互いの所蔵資料を貸したり借りたりしますが、こうした自治体を超えての協力連携を、資料の“相互貸借”と呼んでいます。

下のグラフが示すように、その量は年々増加しています。

ところで、求める本はどのように探すのでしょうか？

また、その本はどのようにして利用者の手に届けられるのでしょうか？

本はどのようにして探すのか？

皆さまの求めている本が地元の図書館にない場合、どこの図書館にあるのかを探し出すのは、簡単なことではありません。自館にない場合は、まず、地元の図書館は県立図書館に問い合わせます。それが県立図書館にもない場合、県立図書館は県内の他の図書館に対して、探している本のリストをファックスで送り、所蔵の有無を確認します。県内の公共図書館にない場合は、国立国会図書館あるいは、他県の公共図書館等の目録で調べます。さらに、探し当てた情報をパソコンによりデータベース化して、同様のケースに即座に応えられるような工夫もしています。

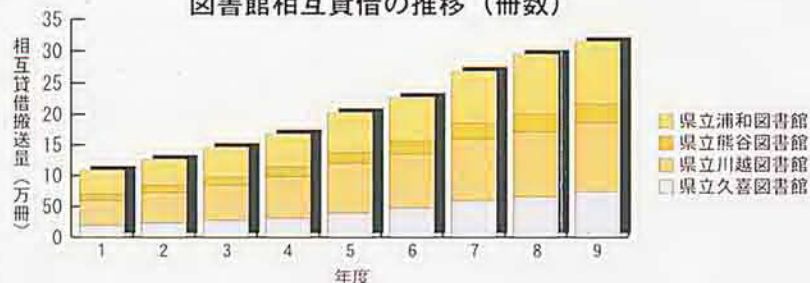
しかし、このシステムも年々増加する要求に応えていくには限界があります。そこで、平成11年度から県内図書館の所蔵する資料を、ISBN（国際標準図書番号）を使って検索するシステムの導入を検討しています。将来的には、インターネットで検索できるようにし、利用者の皆さまからの資料要求に、すみやかに応じられるような図書館のネットワーク・システムを目指していきます。

本はどのようにして運ばれるのか？

県立図書館は、他の県内公共図書館に対して、資料の搬送などを目的とした車を運行しています。県立図書館4館の間は週2回（連絡車）、各県立図書館から市町村の図書館には週1回（協力車）を基本に、定期的に巡回を行っています。その際、県立図書館から資料を運ぶだけではなく、ある市町村の図書館から預かった資料を他の市町村の図書館に運びもします。

このように県内の図書館間にネットワークを作り、皆さまの求めている本を、身近な地元の図書館で利用していただけるようにするのも県立図書館が果たす重要な役割の一つです。

図書館相互貸借の推移（冊数）



◆ 図書館のない町村には移動図書館が！

図書館が設置されていない町村からの希望により、本の貸出などのサービスを行うため、15町村27か所※（左図●印）に県立熊谷図書館の移動図書館車を定期的（年9回）に巡回させています。移動図書館車には約2,500冊の本が積載されていますが、希望の本が見当たらない場合には、リクエストを受けて次の巡回時に届けるようにしています。

なお、それらの図書館未設置町村の公民館図書室などにも図書を出するなど、積極的な協力支援を行い図書館サービスの充実にも努めています。

※ 約1時間停車しています。



◆ 広域利用

広域利用とは、複数の市町村が一つの圏域を作り、その圏内であれば住民はどこの図書館でも利用できるという仕組みのことです。地理的に居住地から近いというだけでなく、各図書館では収集資料やサービスの内容に違いがありますので、用途に合わせて使い分ければ、図書館はますます便利で身近なものになるでしょう。サービス等、詳しい内容は、各図書館にお問い合わせください。

広域利用一覧（平成11年2月1日現在）

市町村名
川越・上福岡
川越・坂戸・鶴ヶ島・日高・毛呂山
越生・川島
川越・大井
川口・浦和
川口・草加・蕨・戸田・鳩ヶ谷
川口・越谷
浦和・大宮・上尾・与野・伊奈
浦和・蕨
浦和・戸田
行田・加須・羽生・騎西
所沢・飯能・狭山・入間
飯能・日高
東松山・滑川・嵐山・小川・都幾川
玉川・川島・吉見・鳩山・東秩父
岩槻・春日部・蓮田・宮代・白岡
杉戸・庄和
鴻巣・桶川・北本・吹上・川里
草加・越谷・八潮・三郷・吉川
松伏
久喜・蓮田・幸手・宮代・白岡
菫浦・栗橋・鷲宮・杉戸
朝霞・志木・和光・新座
富士見・上福岡・大井・三芳

★ 類縁機関の紹介

図書館が自館の資料や情報に基づき、利用者の皆さまからの質問や相談に回答することをレファレンス(Reference)・サービスといいます。自館の資料や情報が十分でない場合、図書館はそのテーマを専門的に扱っている類縁機関(大学図書館・研究機関の資料室等)などを紹介(これをレフェラル(Referral)・サービスといいます。)しています。今回もこのように高度化・多様化する利用者の情報要求に応えるために、図書館の強い味方となっている類縁機関の一つを訪れてみましょう。



開館時間：午前9時～午後5時(資料室のみ。館内の他の施設は午後10時まで。)
 休館日：毎週火曜日、年末年始
 入館料：無料
 所在地：〒366-0002 深谷市大字下手計1204
 TEL 0485-87-1100
 交通：JR高崎線深谷駅下車 市役所前よりバス便あり(1日2便)

《渋沢栄一記念館》

「日本近代資本主義の父」と呼ばれた明治の実業家・渋沢栄一は1840年(天保11年)、現在の深谷市に生まれました。今回紹介する「渋沢栄一記念館」は、その渋沢栄一やゆかりの人々の関係資料を展示している「渋沢栄一資料室」を中心とした複合施設です。資料室に展示されているのは、書や写真・記念品が中心ですが、図書資料もあり、職員に声をかけていただければ手にとって閲覧することもできます。展示の図書はほとんどが初版本で、希少価値のあるものです。展示品は定期的に入れ替えられます。また、記念館の周りには「青淵記念館」(「青淵」は渋沢栄一の号)という別の記念館や栄一ゆかりの史跡が多く点在していますので、興味のある方は併せて訪れてみるのもよいでしょう。

Information

・インターネットに県立図書館のホームページを開設しました。 <http://www.jade.dti.ne.jp/~spul/>

浦和

★ 所蔵ビデオ紹介-宇宙への誘い-
 (市販されていないものばかりです。)

- ・毛利衛 宇宙で学ぶ理科実験(全3巻各 30分 1993年制作)
 - 1 ふわっと快適宇宙の生活 2 不思議いっぱい無重力のヒミツ!
 - 3 世界はひとつ国境はありません 地球環境編
- ・土井隆男 宇宙をめざせ(全2巻 1998年制作)
 - 1 天空に舞う(18分) 2 小さな宇宙(34分)
- ・発進! 国際宇宙ステーション(21分 1998年制作)

これらのビデオも、相互貸借制度を利用して、県内市町村立図書館の窓口から借りることができます。お問い合わせは、県立浦和図書館視聴覚課(TEL048-829-2821)まで。

熊谷

★ 移動図書館「さきたま号」が新しくなりました!

新「さきたま号」は、児童や高齢者、障害者の方に十分配慮したつくりになっています。後部には車椅子用リフトを備え、車椅子のまま車内に乗り込むことができます。また、本を手に取りやすいよう書架が低めに設計されています。両側には雨除けテントが付けられ、車内は冷暖房も完備し、快適にご利用いただけます。さらに、情報検索用パソコンを搭載し、その場で県立図書館の図書情報を検索できます。お問い合わせは、
 県立熊谷図書館移動奉仕課(TEL0485-23-6291)まで。

川越

★ 新規に次の雑誌購入を始めました。

誌名	発行頻度	発行先
アニファ	月刊	スタジオ・エス
看護	月刊	日本看護協会出版会
建設物価	月刊	建設物価調査会
サイアス(Scias)	月2回刊	朝日新聞社
商店建築	月刊	商店建築社
スケール	季刊	アートヴィレッジ
食べもの通信	月刊	食べもの通信社
東京時刻表	月刊	弘済出版社
日本医事新報	週刊	日本医事新報社
フィッシュマガジン	月刊	緑書房
Popular Science	月刊	Times Mirror Magazines
OAG desk-top guide		
world wide edition	月刊ですが、年4回購入します	OAG

お問い合わせは、
 県立川越図書館参考調査課(TEL0492-44-5602)まで。

久喜

★ 布絵本の製作を始めました!

県立久喜図書館では、手作り布絵本講座を開催しました。布絵本は布で立体的に作ったり、触って楽しむための絵本です。講座終了後も、障害のある子どもたちがこれらの布絵本で楽しく絵本に親しめるよう、受講された方々がボランティアグループを結成し、布絵本の製作が続けられています。今後、順次整備を続け、貸出は平成11年4月からを予定しています。お問い合わせは、
 県立久喜図書館児童奉仕課(TEL0480-21-2659)まで。

